

財団法人 成長科学協会 主催 第 22 回公開シンポジウム



豊かな思春期への支援

日時：平成 21 年 6 月 13 日（土）13:30～16:30
会場：新宿明治安田生命ホール
入場無料／当日先着 340 名

演者：

日野林俊彦（大阪大学大学院人間科学研究科教授）
横谷進（国立成育医療センター第一専門診療部長）
久保田ひさ子（障害者施設支援者）

梶原隆之（文京学院大学人間学部人間福祉学科准教授）

INTRODUCTION

ごあいさつ

財団法人成長科学協会は、身体の発育・成長の問題だけでなく心の発達に関しても強い関心を持ち、“心の発達研究委員会”（委員長：長田久雄・桜美林大学大学院国際学研究科教授）を中心として活動を続けております。

この委員会が企画いたします公開シンポジウムも今回で第 22 回を迎えました。今回は「豊かな思春期への支援」というテーマです。

発達心理学分野において、心身の変化が著しい思春期に起こる精神的・身体的問題を研究されている日野林俊彦先生、梶原隆之先生、この時期の成長や性発達に関わる身体的問題に取り組まれている横谷進医師、また実際に施設で子どもたちの支援をされている久保田ひさ子様、4 名のそれぞれの視点から現在の子どもたちの様子をお話いただきます。環境の違いや病気などが、思春期の子どもたちにどのように影響しているのか、またその問題にどう対処していったらいいのかなどを中心に、質疑応答およびディスカッションを交えながら進めて参りたいと思っております。

是非、多数の皆様の御参加をお待ちしております。



財団法人成長科学協会
理事長：入江 實

プログラム

テーマ：「豊かな思春期への支援」

司会：上村佳世子（文京学院大学） 廣中直行（科学技術振興機構）

13:30 開会あいさつ

13:35 提言 1 「思春期と環境－発達加速現象の視点－」

日野林俊彦（大阪大学大学院人間科学研究科教授）

14:15 提言 2 「ターナー症候群と思春期の性発達」

横谷進（国立成育医療センター第一専門診療部長）

14:45 〈休憩〉

15:00 提言 3 「仲間と身体を動かす喜びを」

久保田ひさ子（障害者施設支援者）

15:20 提言 4 「養護を必要とする児童への対応」

梶原隆之（文京学院大学人間学部人間福祉学科准教授）

15:50 質疑応答・ディスカッション

16:30 閉会

提言1 思春期と環境 —発達加速現象の視点—

日野林俊彦

思春期は、発達心理学では子ども時代の終わり、青年期の始まりの時期とされています。思春期変化と言われる心身の変化が著しく、身体の成長と心の発達とのバランスが困難な時期です。思春期は周囲の大人から見ても、理解の困難な発達段階ですが、個人差とともに、地域差、時代差が見られ、ますます理解を困難にしています。

大阪大学では半世紀にわたって、発達加速現象の研究を行ってきました。ここでは、思春期変化の代表指標であり、発達加速現象の指標でもある女子の初潮年齢を中心に、今、思春期に何が起きているのかを述べるとともに、初潮年齢に影響を与える様々な環境要因を説明します。

提言3 仲間と身体を動かす喜びを

久保田ひさ子

学齢期以降の障害児・者の保護者からは「運動してほしい」という希望をよく聞きます。しかしながら、彼らが適切な配慮のもとに身体を動かせる場所・機会は多くありません。また、「運動が好きではない」「運動が得意ではないという自覚があり、人前で運動することを嫌う」など、本人に起因する理由で運動から遠ざかっていることも考えられます。

段階を踏んだ体験とアドバイスにより、ある程度の運動スキルを獲得することで、「身体を動かすって楽しい!」と感じてほしいと思います。そんな願いで活動しているNPOの「運動が苦手な子のための教室」の取り組みを、私が関わっている他のグループの活動と照らし合わせながら紹介します。

提言2 ターナー症候群と思春期の性発達

横谷進

日本人の女子は、平均的に10歳前後に乳房が大きくなり始め、12歳過ぎに初経を迎えます。このような思春期の身体的な変化は、卵巣から女性ホルモンが血液中に放出（分泌）されることによって起こります。しかし、卵巣機能不全といって卵巣がよく働かない場合には、思春期の身体的な変化が起こってきません。実は卵巣機能不全はそれほど珍しくありません。ターナー症候群というのは、女子およそ2000人に1人の割合で生まれますが、背が低く、8割くらいに卵巣機能不全があるけれども、とくに目立たない、ふつうの女の子です。講演では、ターナー症候群を紹介し、女性ホルモンを補うことによって、二次性徴が自然と同じように現われてくる治療の大切さについて説明します。

提言4 養護を必要とする児童への対応

梶原隆之

児童養護施設では青年期になると、子ども時代には問題とならなかった問題が起こります。それに対する援助のあり方を、「性的虐待を受けた女子が、高校時代にテレクラにはまった事例」「ものすごく強がっていた男子中学生が、住み込みで定時制に通うが、行方をくらませて逮捕された事例」「不登校になった男子中学生が、キャンプでカヌーが出来たことで学校に復帰できた事例」「乳児院から里親へ行ったが失敗し入所、中学時代に里親に強盗に入り逮捕、児童自立支援施設に措置変更になった事例」などを通して述べます。また、児童養護施設で活用出来る、「出来事に伴う不快な感情を軽減し、自己を受容し、肯定的な思考へ導く」新しい技法EFT (Emotional Freedom Techniques) を紹介します。

演者1 日野林 俊彦

ひのばやし としひこ

大阪大学大学院人間科学研究科博士課程単位取得退学。大阪大学健康体育部助教授などを経て、現在、大阪大学大学院人間科学研究科教授。元大阪大学学生相談室長、比較発達心理学専攻。学術博士。

演者3 久保田 ひさ子

くぼた ひさこ

日本女子体育大学を卒業後、中学の特殊学級（現・特別支援学級）補助教員となる。当時の保護者とのつながりで、その後、作業所や障害児（小学～高校）放課後クラブの設立の際、指導員として勤務。現在はNPO法人スマイルクラブの非常勤スタッフと、地域生活支援事業所（一時預かり等）のスタッフを兼任。

司会 上村 佳世子

うえむら かよこ

文京学院大学人間学部教授。教育心理学、文化心理学、心理学基礎実験を担当。専門は発達心理学。家族間の相互行為の観察から、幼児がどのように言葉および行動スタイルを獲得していくかを研究テーマとしている。

演者2 横谷 進

よこやすすむ

1976年に東京大学医学部を卒業後、小児科医として勤務している。神奈川県立こども医療センター、マニトバ大学（カナダ）生理学教室、虎の門病院小児科などを経て、現在は国立成育医療センター第一専門診療部に所属している。専門は小児内分泌で、これまで、成長や性発達に関わる小児期・思春期の身体的問題に取り組んできた。

演者4 梶原 隆之

かじはら たかゆき

上越教育大学大学院修士課程学校教育研究科学校教育専攻生徒指導コース修了。東京YMCA、中学校教諭、児童養護施設児童指導員などを経て現在に至る。「福祉教育指導法」などを担当。社会福祉士。最近の研究テーマは、子どもへのEFT(Emotional Freedom Techniques)の適用。

司会 廣中 直行

ひろなか なおゆき

東京大学文学部心理学科卒。実験動物中央研究所、理化学研究所、専修大学などを経て、現在は科学技術振興機構研究員。専門は実験心理学、精神薬理学。医学博士。

主催 財団法人 成長科学協会
企画運営 心の発達研究委員会
〒113-0033 東京都文京区本郷5-1-16 NP-Ⅱビル
TEL. 03-5805-5370